（1）　明治20年創刊　第40331号　（明治25年3月28日第三種郵便物承認）　THE JOMO SHINBUN　2007年（平成19年）8月15日（水曜日）（日刊）

大学・短大進学50％超

高校新卒者「全入時代」を反映　景気拡大で就職も微増

県内高校の全春の新卒十四日、県の学校基本調査（五月一日現在）結果が公表された。大学・短大に進学した割合は、昨年を0・4ポイント上回る50・6％で初めて50％を超えたことが速報で分かった。今春の大学全入時代を迎え、高学歴志向が強まったことや、高学歴志向が就職に影響しているとみられる。就職率は昨年から0・4ポイント増加し17・8％。減少傾向の続く専門学校・各種学校は1・9ポイント減の26・5％となった。

今春の高校新卒者は一万八千六百六十三人。このうち、海外などの大学を含む大学・短大への進学者は九千四百三十五人だった。進学率を男女別にみると男子50・3％、女子50・8％とほぼ同じ。女子が初めて上回った。

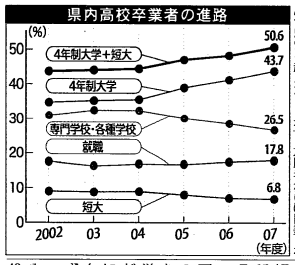
進学先は四年制大学が八千百四十七人で全体の43・7％、短大は千三百七十七人で全体の6・8％、その他の大学は十一人だった。

四年制大学への進学率は年々アップしており、県教委が今春調査した公立高校の新卒者でも過去最高の43・1％を記録。この十年間で15・9ポイント上昇した。

大学・短大進学以外では専門学校・各種学校が最多で、四千九百四十四人。ただ、減少傾向に歯止めはかかっておらず、人数は五年前の73％程度まで落ち込んでいる。

就職率は景気拡大に伴い、求人増加などから微増した。過去五年間で最も高くなった。三年前から調査を始めた、アルバイトなどの「一時的な仕事に就いた者」は百九十三人だった。

県内高校卒業者の進路



しのぎ削る「4年制」

文部科学省によると、四年制大学の数は短大の改編や新設により二〇〇一～〇六年で全国に百六十八校増えた。少子化も背景に競争は激化。大学側は学生の確保のため、特色のある学部の設置など工夫を凝らした大学運営に取り組んでいることも、進学者の増加につながっている。

「四大志向」について県教委高校教育課は、大学進学も就職もしない人は七百二十人で、五年前の半数以下に減少した。

説明。就職を希望する高校生の中にも、四年制大学への進学を検討する生徒が増えているという。

一方、大学に入りやすくなったことで、大学受験浪人者数は減少。今春、七百二十人で、五年前の半数以下に減少した。

即商初戦突破

夏の全国高校野球

甲子園＝田島聡子、正幸記者、山田浩之「ラマン」第十九回橋商＝浦和学院　甲戦突破を雪かせ、橋商ナイン＝甲子園

関連記事 14、17～19面

全国高校野球選手権大会第七日は十四日、兵庫・阪神甲子園球場で二回戦四試合を行った。第二試合に登場した本県代表の前橋商は2－1で浦和学院（埼玉）に競り勝ち、第四試合（午後四時開始予定）で第九日（十六日）に行われる宇治山田商戦は第十日（十七日）の初戦突破。十六強入りを果たした。

先攻の前橋商は五回に木和寛選手の適時三塁打で先制。その裏に同点に追いつかれたが、八回に佐々木和寛選手の適時二塁打で勝ち越すと、そのまま逃げ切った。

八強入りを懸けた二回戦は第十日（十七日）の第四試合（午後四時開始予定）で第九日（十六日）に行われる宇治山田商（三重）と佐賀北（佐賀）が対戦する。

前橋商は二年ぶり四度目の夏の甲子園出場で、前回も十六強入りしている。

知事と市長、近く会談

太田市の特区校で

太田市の英語教育特区校「くんま国際アカデミー」の私学助成金問題で、大沢正明知事と清水聖義市長は今月二十一日にも会談する。

同問題をめぐっては、県議会が本年度当初予算案の審議で、小学校2校修正額より多い他の私学や介護保険から給付されなかった高齢者等に対し助成額四万～三十八万円の助成を求めており、県と市がどこに着地点を求めるか注目される。

県と市の話し合いは膠着状態が続いていたが、知事選後の三日、担当者による事務レベルの協議が行われ、解決に向け努力する認識で一致していた。

小寺前知事在任中は、受け取った自己つた▼桐生市出身の特攻兵、荒木幸雄さん＝当時17＝が、十六歳の三月、鹿児島から出撃する前の手紙で、「私が